

## 「世界津波の日」大盛会 !!

11月5日の「世界津波の日」は今年も大盛会でした。恒例の「第115回津浪祭」が開催されました。

式典に先立ち、広小学校6年生と耐久中学校3年生が「広村堤防」の上に土を置



き、補強する行事を行いました。今年も国連訓練調査研究所(UNITAR)広島事務所が実施する「津波防災に関する女性のリーダーシップ研修」の一環として18カ国33名が、一緒に



土置きをされました。その後、小中学生と共に合掌して、津波犠牲者のご冥福を祈っていました。

1854年の安政地震・津波を現在、未来へ伝承していく「津浪祭」は今専門家の間からも改めて評価されています。私たちの先祖が体験した災害を未来へも継承するように、努めていきたいと思ひます。

この日、JRは湯浅駅から南広小、津木小中の児童・生徒を臨時列車に乗せて、八幡前踏切で停車させ、地震・津波の避難訓練を実施しました。避難先の広八幡神社では、内閣府の、準天頂衛星システムの実証実験を避難訓練参加者に行われました。

稲むらの火の館館内では、NHKラジオが3階へスタジオを設営し、「防災特別番組」を約2時間国際放送として世界へ放送されました。

午後は、浪曲師菊地まどかさんが、浪曲「稲むらの火」を、すばらしい声で初披露され来館者は皆、感嘆の声を上げました。

## 世界からの来館者

「世界津波の日」の関連行事も館内で行われました。11月5日に先立ち、2日には今年初めて行われた「世界津波博物館会議」(本会議は、沖縄県石垣島)へ参加される各国博物館代表が来られました。ハワイの太平洋津波博物館、インドネシアのアチェ津波博物館、タイ・バンガー県博物館、スリランカの津波写真博物館・地域津波教育センター&博物館、チリ・内務省国家緊急対策室、ポルトガル・リスボン市立博物館、トルコ・ブルサ防災館からの7名でした。稲むらの火の館からは西名誉館長が、11月5日の本会議に参加しました。



11月4日には、第2回濱口梧陵国際賞の受賞者の一人、ペルーのフリオ・クロイワ(ペルー国立工科大学名誉教授)さんが来られました。クロイワ名誉教授のお父さんが福岡県出身の日系人の方で、こちらから話す日本語は大体分かりますと言われ精力的に見学されました。

\*\*\*\*\*  
<和歌山放送ラジオ>

ラジオの和歌山放送は、避難訓練先の広八幡神社で、西岡利記町長のインタビューを生放送でされました。その後、稲むらの火の館で館長もインタビューを受けました。

濱口大明神縁起(その11)

濱田康三郎 (かわせみより)

その時老人は少し泣きました。一つには抑え切れない嬉しさの為に、一つには年老い力衰えた身に受けた試練のあまりの辛さの為に。

『わしの家は残っている。』と、彼はものが言えるようになると同時に、無意識的にタダの鳶色の頬を撫でながら云いました。『随分入れるぞ。それに山の上にはお寺もある。此方へ入り切れない人はあちらへ行って貰えばよい。』

そうして彼は自分の家の方へ先頭に立って歩き出しました。一同は叫んだりわめいたりしました。

苦難の時期は長く続きました。何故かと云えば、その時代には地方と地方との間には迅速な交通の方法もなく、しかも必要な救護は遠くの方から送られねばならなかったからです。然し、よりよき時節の来た時、人々はハマグチ・ゴヘイに対する彼等の債務を忘れませんでした。彼等は彼を富ませることは出来ませんでした。いや、よし出来てあったにしても、彼は彼等にそんなことをさせはしなかったであります。ましてや物質上の贈り物の如きは、彼等の彼に対する敬虔な感情を現わすに足り得なかったであります。彼等は彼の内に存する精霊を神界に属するものと信じたのですから。で、彼等は彼を呼ぶに神を以てし、爾後彼を濱口『大明神』と称しました。彼等はこうしてこれ以上の名誉を彼に授けることは出来ないだろうと考えたのでありますが——事実、世界のいづこの国へ行けばとて、これ以上の名誉が人間の身に授けられ得ましようか。村が再興せられた時、彼等は彼の霊魂のために一字のお宮を建立し、その正面の上に金の漢字で彼の名前を書いた扁額を掲げました。そして人々は其処に祈りと供え物とを捧げて彼を祭りました。私は彼がこの事柄に就いて如何なる感じを抱いたかを述べることは出来ません。ただ私の知るところでは、彼は心霊は下の神社の中に祭られながら、その後も相変わらず人間らしく又質朴に、彼の子供達や子供達の子供達と一緒に、小山の上の

古ぼけた藁葺の家に住みつづけたそうであります。彼が死んでから百年以上の年月が経過しています。けれども彼のお宮は、聞けば、なお現存していて、人々は今に心配事や憂い事のあつる度毎に、此の善良な老農夫の精霊に救いを求めるとの由であります。(つづく)

\*\*\*\*\*

[ 名誉館長日記 ]

世界津波博物館会議に出席して

西 博義

11月5日、国連国際防災戦略事務局・外務省・(独)国際協力機構が主催して石垣島で開催された「世界津波博物館会議」に参加しました。

会議にはインドネシア・タイ・スリランカ・アメリカ・ポルトガル・トルコの津波博物館から、日本からは3つの博物館が参加しました。

津波博物館の代表からは、各地の活動状況が報告され、さらに津波の伝承拠点としての役割等について活発な議論が展開されました。



今回参加して、この会議が開催されたのは「稲むらの火の館」が大きな役割を果たしていることを痛感しました。来年の奥尻島開催に向け、更なる取り組みを進めていきます。

<同会議へ参加したインドネシアのムザイリン・アファンさんのフェイス・ブックより>

非常に良い建設的な議論でした。災害(防災)二階さんと西さんとの間に世界の津波(世界津波の日)が世界のコミュニティや次の世代に影響を与えた。第二に高等学校、学生サミットも。

ありがとう二階先生と西さん!

(フェイス・ブックへ書き込んだインドネシア語を自動翻訳されたもののようです。)